

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/04/02

米中欧の景気回復期待をにらみながら

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↘	利下げ観測が急浮上 予想レンジ: 83.10 ~ 88.60 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	→	RBNZは声明に注目 予想レンジ: 65.10 ~ 70.00 円	4-5
<u>ランド/円</u>	→	主要国株価と国内のインフレを見ながら 予想レンジ: 10.40 ~ 11.40 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



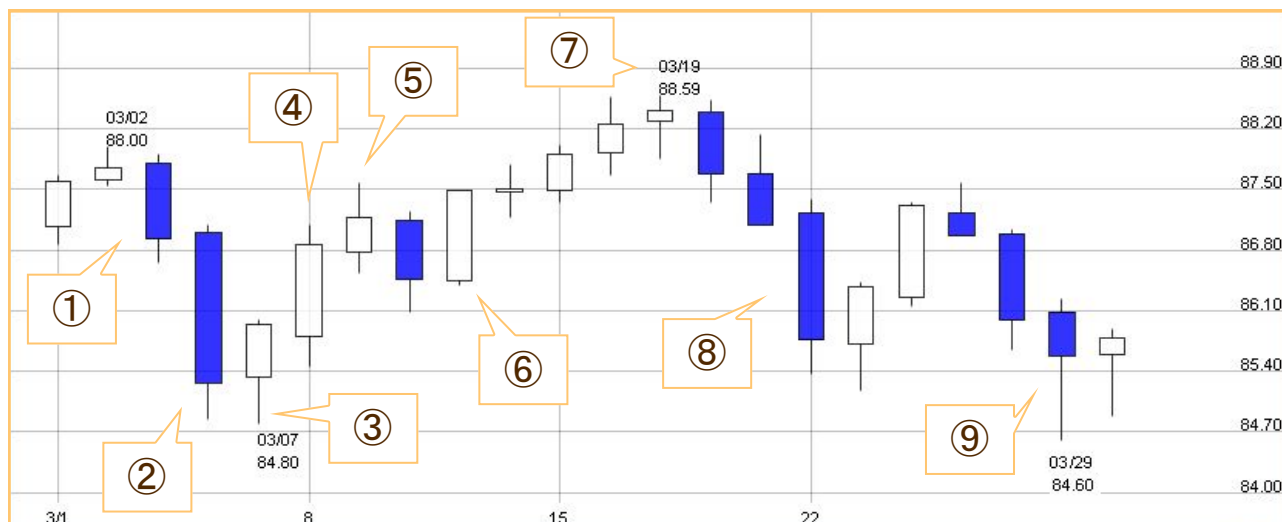
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	87.07円	88.59円	84.60円	85.78円



- ① 5日、中国の政府活動報告が発表され、2012年の成長率目標を前年の8.0%から7.5%に引き下げ、「穏健的」な金融政策を続けるとした。これを受けて、同国の積極的な金融緩和への期待がやや後退。欧州市場でもこの事が蒸し返されると、豪ドル/円は86.65円まで下げた。
- ② 6日、豪第4四半期経常収支は83.74億豪ドルの赤字と予想(80.50億豪ドルの赤字)より弱い内容となるも、市場の反応は限定的。その後、豪準備銀行(RBA)理事会は声明文にて「金融政策は当面適切」とするも、「インフレ見通しは、必要ならば緩和の余地を提供」などの見方を示した。一部で予想されたほどにはタカ派的な内容とはならなかった事が嫌気されて、豪ドル/円は下落。その後、「ギリシャ政府は債務交換協議に対する民間部門関与(PSI)の締切を8日から14日に延長する事を検討」との報道を受けて、リスク回避の動きからNYダウ平均が一段安となると、豪ドル/円は続落した。
- ③ 7日、豪第4四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.4%、前年比+2.3%と予想(+0.8%、+2.4%)より弱い内容となった事を受け、豪ドル/円は84.80円まで弱含む場面が見られた。
- ④ 8日、豪2月新規雇用者数が1.54万人減と予想(0.50万人増)を下回り、失業率は5.2%と前月と比べ0.1%悪化した。これを嫌気して豪ドル/円は85.46円まで急落。ただその後、ギリシャの債務交換への民間参加率が高水準になるとの観測から欧州株が上昇幅を拡大すると、87円台に反発した。
- ⑤ 9日、豪1月貿易収支は6.73億豪ドルの赤字と予想(15.00億豪ドルの黒字)より弱い内容となったが、豪ドル/円の下げは限定的であった。
- ⑥ 13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明にて、景気見通しや労働市場の改善について言及した事を受けて米景気回復期待が高まった。米金融大手JPモルガン・チェースの増配報道も重なり、NYダウ平均が2008年1月以来の高水準に上昇すると、豪ドル/円は引けにかけて87.49円まで上昇した。
- ⑦ 19日、取引開始直後の薄商いの中、ユーロ/円相場で110円台乗せを狙った仕掛け的な円売りが強まった事に連れて、豪ドル/円は2011年5月以来となる88.59円まで上昇した。
- ⑧ 22日、中国HSBC3月PMI製造業が48.1と前月(49.6)から低下した事を受け、同国の景気減速懸念が再燃して豪ドル売りが活発化した。
- ⑨ 29日、前日の著名RBAウオッチャーの見解を背景に、来月3日のRBA理事会での利下げ観測が浮上。その後は欧米株の下落も重なり、豪ドル/円は2月16日以来となる84.60円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

3月の豪ドル/円相場は84.60円～88.59円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.6%の下落(豪ドル安・円高)となった。上旬は米景気回復期待を背景としたNYダウ平均の上昇を受けて豪ドル/円は値を上げるも、下旬に入ると中国経済の減速懸念や豪利下げ観測の急浮上などを手掛かりに大きく値を下げた。

4月の豪ドル/円相場は、豪国内で重要イベントが多い中、3日の豪準備銀行(RBA)理事会に注目が集まりそうだ。前月のRBA理事会の声明文で金融緩和の余地を残した事で利下げ観測がくすぶる中、先月末の著名RBAウォッチャーの見解がきっかけとなって、利下げ観測が急浮上した。仮に今回利下げが行われる場合、直後の市場では豪ドル売りでの反応が予想される。もっとも、今回の利下げ観測はRBAの要人サイドの発言が原因ではない事を考えると、今回の理事会で金利を据え置く事も考えられる。その場合は声明文での今後の金利見通しを確認することとなりそうだ。

豪国外では、米3月雇用統計に注目したい。2月から3月にかけて雇用増加を背景に米景気回復期待が高まる中、先月27日にバーナンキFRB議長は失業率の低下は一時的との見方を示した。今回、雇用状況の改善に伸び悩みが見られるようだと、米景気回復期待が後退して株安が進み、豪ドル/円が弱含む可能性がある。一方、FRBの想定以上に雇用の回復が進んでいるとの見方が強まれば、米景気回復期待の再浮上を背景に、株価の上昇を受けて豪ドル/円に上昇圧力がかかる事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ:83.10～88.60円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

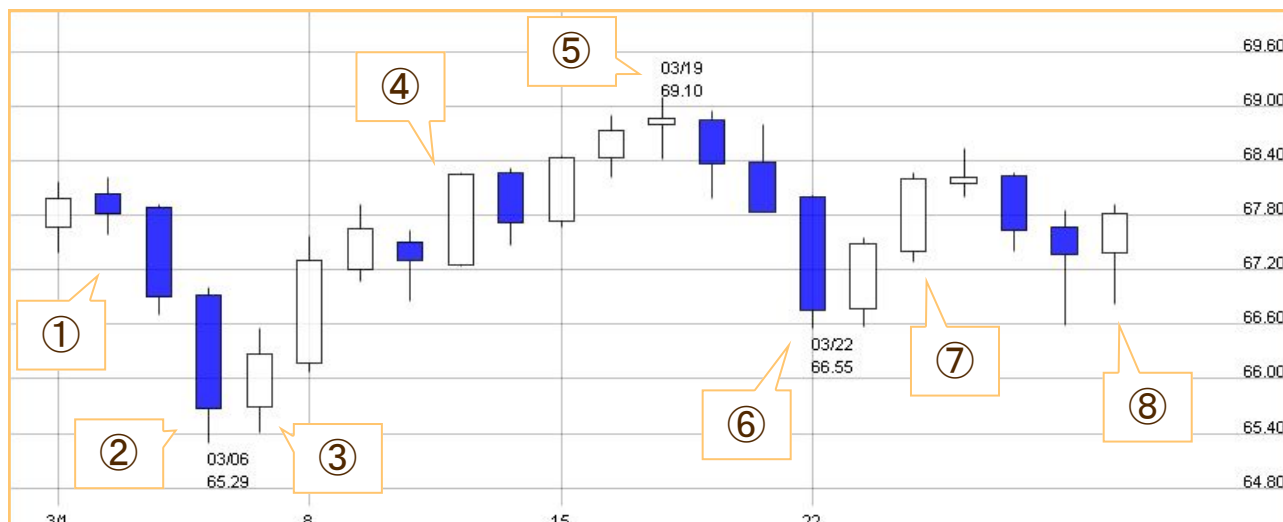
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	日銀短観	4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)
	2月豪住宅建設許可件数	4/12(木)	3月豪雇用統計
	3月米ISM製造業景況指数	4/13(金)	第1四半期中国GDP
4/3(火)	2月豪小売売上高		3月米消費者物価指数
	RBAキャッシュターゲット		4月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	FOMC議事録(3月12・13日分)	4/16(月)	3月米小売売上高
4/4(水)	2月豪貿易収支	4/17(火)	RBA議事録
	欧州中銀政策金利発表	4/19(木)	3月日通関ベース貿易収支
	3月米ADP全国雇用者数	4/20(金)	第1四半期豪輸入物価指数
	3月米ISM非製造業景況指数	4/23(月)	第1四半期豪生産者物価指数
4/6(金)	3月米雇用統計	4/24(火)	第1四半期豪消費者物価指数
4/9(月)	2月日経常収支	4/25(水)	米FOMC政策金利発表
	3月中国消費者物価指数	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	67.67円	69.10円	65.29円	67.81円



- ① 5日、中国の政府活動報告が発表され、2012年の成長率目標を前年の8.0%から7.5%に引き下げ、「穏健的」な金融政策を続けるとした。これを受けて、同国の積極的な金融緩和への期待がやや後退すると、NZドル/円は下落。欧州市場でもこの事が蒸し返されると、68.42円まで続落した。
- ② 6日、格付け会社S&Pが、「投資家は民間部門の債務懸念で、NZドル資産から離れる可能性がある」「NZ資産のシフトはNZドルに打撃を与え、銀行の借入れコストを引き上げ、経済成長を損なう可能性がある」との見解を示した事や、豪準備銀行(RBA)理事会後に豪ドル/円が急落した事が重なり、NZドル/円は値を下げた。更に「ギリシャ政府は債務交換協議に対する民間部門関与(PSI)の締切を8日から14日に延長を検討」との報道を受けてリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が一段安となると、NZドル/円は65.29円の安値をつけた。
- ③ 7日、NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利を2.50%に据え置いた。声明で「持続的なNZドル高であれば利上げの必要は低下する見通し」「インフレは目標レンジの中心付近で安定」等と伝えた事を受け、目先の利上げ期待が後退。これを受けNZドル/円は弱含んだ。
- ④ 13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明にて、景気見通しや労働市場の改善について言及した事を受けて米景気回復期待が高まった。米金融大手JPモルガン・チェースの増配報道も重なり、NYダウ平均が2008年1月以来の高水準に上昇すると、NZドル/円は引けにかけて一段高となった。
- ⑤ 19日、取引開始直後の薄商いの中、ユーロ/円相場で110円台乗せを狙った仕掛け的な円売りが強まった事に連れて、NZドル/円は2010年5月以来となる69.10円の高値を付けた。
- ⑥ 22日、NZ第4四半期国内総生産(GDP)は前期比+0.3%、前年比+1.8%と予想(+0.6%、+2.2%)より弱い内容となった。これを受けてNZドルは下落。その後も中国の3月HSBC製造業PMIの悪化や欧米株の下落を背景に、NZドル/円は66.55円まで一段安となった。
- ⑦ 26日、バーナンキ米FRB議長が失業率の低下は一時的との見方を示した事を受け、米国の追加金融緩和観測が急浮上。これを受けて欧米株が上昇すると、NZドル/円も上値を追う展開となった。
- ⑧ 30日、日経平均株価の下げ幅拡大を背景にNZドル/円は66.82円まで下げた。しかしその後、欧州連合(EU)が「現在の救済基金の上限を7000億ユーロに引き上げる」「およそ8000億ユーロを救済に回せる」等と発表した事や、米3月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値が76.2と予想(74.5)を上回った事を背景に、リスクを積極的に取る動きが強まってNYダウ平均が上昇すると、NZドル/円は反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

3月のNZドル/円相場は65.29円～69.10円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.1%の上昇(NZドル高・円安)となった。上旬は米景気回復期待の高まりを受けたNYダウ平均の上昇を背景にNZドル/円は上昇するも、下旬に入ると中国経済の減速懸念などを背景に上げ幅を縮小した。

4月のNZドル/円相場は、主要国の景況感を受けた株価動向がポイントとなりそうだ。米国では景気回復が期待される一方、中国や欧州では景気減速が懸念されている。このため、これらの国の経済指標を受けて景気に対して前向きな見方が広がるようならば、リスクを積極的に取る動きからNZドル/円は買われやすいと見る。ただ、米3月雇用統計や中国第1四半期GDPなど、市場の関心が集まりやすい経済指標が相次いで予想を下回るようだと、景気減速懸念が強まってNZドル/円が弱含む可能性がある。

NZ国内では、26日にRBNZオフィシャル・キャッシュレートの予定されている。先月発表された第4四半期GDPが予想を大きく下回った事や、RBNZが先月の声明でNZドル高に懸念を示した事から、市場では政策金利の据え置きが広く予想されている。その場合、同時に発表される声明に注目したい。声明を受け、市場で今年年末から来年と見られているNZの利上げ開始時期が前倒しされるとの見方が強まるようならば、NZドルが買われる場面もありそうだ。(川畑)

(予想レンジ:65.10～70.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

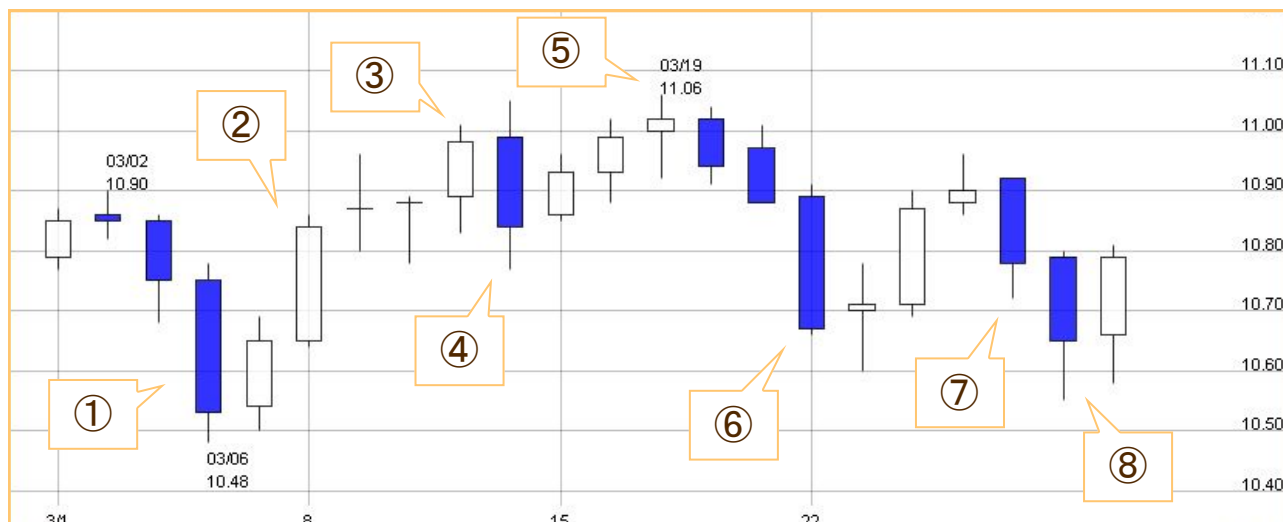
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	日銀短観	4/13(金)	第1四半期中国GDP
	3月米ISM製造業景況指数		3月米消費者物価指数
4/3(火)	FOMC議事録(3月12・13日分)		4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
4/4(水)	欧州中銀政策金利発表	4/16(月)	3月米小売売上高
	3月米ADP全国雇用者数	4/19(木)	第1四半期NZ消費者物価指数
	3月米ISM非製造業景況指数		3月日通関ベース貿易収支
4/6(金)	3月米雇用統計	4/25(水)	米FOMC政策金利発表
4/9(月)	2月日経常収支	4/26(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
	3月中国消費者物価指数	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)	4/30(月)	3月NZ貿易収支
4/11(水)	米地区連銀経済報告(ベージュブック)		3月NZ建設許可件数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 3月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.79円	11.06円	10.48円	10.79円



- ① 6日、「ギリシャ政府は債務交換協議に対する民間部門関与（PSI）の締切を8日から14日に延長を検討」との報道を受けてリスク回避の動きが強まり、NYダウ平均が一段安となると、ランド/円は10.48円まで下落した。
- ② 8日、ギリシャの債務交換への民間参加率が高水準になるとの観測を好感して欧米株が上昇幅を拡大すると、ランド/円は10.86円まで値を上げた。
- ③ 13日、米連邦公開市場委員会（FOMC）が声明にて、景気見通しや労働市場の改善について言及した事を受けて米景気回復期待が高まった。米金融大手JPモルガン・チェースの増配報道も重なり、NYダウ平均が2008年1月以来の高水準に上昇すると、ランド/円は引けにかけて11円台に乗せた。
- ④ 14日、欧州株の上昇を背景に昨年8月以来の高水準となる11.05円まで上昇した。しかし、南ア1月小売売上高が前年比+3.9%と予想（+6.7%）を大きく下回った事を受けて、ランド売りが優勢となった。
- ⑤ 19日、南ア第4四半期経常収支は110.2億ランドの赤字と、予想（1320億ランドの赤字）より赤字幅が小さくなった。対国内総生産（GDP）比で-3.6%（予想：-4.2%）と伝えられたが、市場の反応は薄かった。しかしその後、NYダウ平均の持ち直しを背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、ランド/円は2011年8月以来となる11.06円の高値を記録した。
- ⑥ 22日、南ア2月消費者物価指数は前年比+6.1%と4カ月連続で南ア準備銀行（SARB）のインフレ目標（年3～6%）を上回るも、予想（+6.4%）や前回（+6.3%）を下回った。これを受け、一部で期待されていた29日のSARB金融政策発表での利上げ観測が後退。中国や欧州経済の減速懸念を背景にした欧米株の下落も重なり、ランド/円は10.66円まで値を下げた。
- ⑦ 28日、格付け会社S&Pは南アの格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」へと変更した。これを受けてランド売りが優勢となった。ただ、欧州連合（EU）が「欧州で債務危機に陥った国および金融機関を支援する安全網について、規模を5000億ユーロから拡大することに反対があるとは見込んでいない」との見解を示した事が好感され、ユーロ/円が上昇した影響もあり、ランド/円の下げは限られた。
- ⑧ 29日、SARBは政策金利の5.50%据え置きを発表。声明では、GDP見通しの引き上げ（2012年：2.8%→3.0%、2013年：3.8%→3.9%）と発表されたものの、市場の反応は限定的だった。ランド/円相場は欧米株や原油相場の下落の影響を受けて、一時10.55円まで下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

3月のランド/円相場は10.48円～11.06円のレンジで推移し、月の終値は前月終値と同一となった。先月のランド/円相場は、6日にギリシャの債務問題が懸念視されてNYダウ平均が一段安となった事を受けて10.48円まで下落。その後米景気回復期待を背景に11.06円まで上昇するも、バーナンキFRB議長が雇用の回復は一時的との見方を示した事や、中国や欧州の景気減速懸念を背景に再び反落した。

4月のランド/円相場は、主要国の景況感を受けた株価動向がポイントとなりそうだ。市場の関心は米中の景気動向に集まっており、米3月雇用統計や中国第1四半期国内総生産(GDP)といった、市場の関心が集まりやすい経済指標が予想を下回るようだと、景気減速懸念が強まってランド/円が弱含む可能性がある。ただ、これらの国の経済指標を受けて景気に対して前向きな見方が広がるようならば、リスクを積極的に取る動きからランド/円が買われる事も考えられる。

一方、南ア国内では、南ア準備銀行(SARB)の利上げ開始時期を読む上で、3月消費者物価指数に注目したい。先月、同指数が市場予想を下回ったことで、一部で浮上していた利上げ期待が後退してランド/円が弱含んだ。SARBは先月の金融政策発表の際、今年第2四半期にインフレ率は6.5%に達するとの見通しを示しており、これを上回るインフレの進行が示される場合、利上げ観測が再浮上してランド/円相場が強含む可能性がある。(川畑)

(予想レンジ:10.40～11.40円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
4/2(月)	日銀短観	4/13(金)	3月米消費者物価指数
	3月米ISM製造業景況指数		4月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
4/3(火)	FOMC議事録(3月12・13日分)	4/16(月)	3月米小売売上高
4/4(水)	欧州中銀政策金利発表	4/18(水)	3月南ア消費者物価指数
	3月米ADP全国雇用者数		2月南ア実質小売売上高
	3月米ISM非製造業景況指数	4/19(木)	3月日通関ベース貿易収支
4/6(金)	3月米雇用統計	4/23-30	3月南ア生産者物価指数
4/9(月)	2月日経常収支	4/25(水)	米FOMC政策金利発表
	3月中国消費者物価指数	4/27(金)	第1四半期米GDP・速報値
4/10(火)	日銀金融政策決定会合(9日～)	4/30(月)	3月南ア財政収支
4/11(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	未定	3月南ア貿易収支
4/13(金)	第1四半期中国GDP		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。